

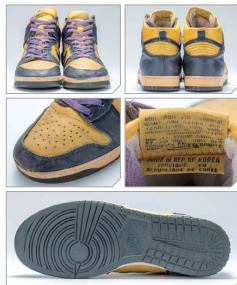
ORIGINAL RELEASE:1985

NIKE DUNK HIGH

NCAA強豪校のユニフォームを染めるカレッジカラーを
アッパーに落とし込んだ80年代バッシュ界のアイコンモデル

現代のストリートシーンにとって欠かせないアイコンとなったDUNK。90年代の古着文化や2000年前後の裏DUNKブームを経て、世代問わず安心して履けるスニーカーの代表格としての地位を確立したプロダクトだ。80年代バッシュデザインとカレッジカラーを彷彿させるバリエーションは非常に魅力的で、値上がり傾向が目立つナイキ製スニーカーの中で復刻DUNKが比較的手頃なプライスを維持しているのもありがたい。このDUNKが生んだ背景には、1980年代中盤にナイキが展開したマーケティング戦略が存在する。バスケットボール分野における更なるマーケット拡大を画策していたナイキは、マイケル・ジョーダンを筆頭とするNBAのトップアスリートとの契約に加え、NCAA（全米大学体育協会）のオースティンにも積極的なアプローチを展開する。国内では高校野球が大変な盛り上がりを見せるのと同様に、北米ではカレッジリーグの熱狂的なファンが少なくない。DUNKはそうしたNCAAファンに向けたプロダクトだ。

熱心なスニーカーファンであれば「BE TRUE TO YOUR SCHOOL」のスローガンを1度は目にした経験があるだろう。この直訳は「自身の学校に忠実であれ」だ。ナイキ目線で意識するならば「NCAAの強豪チームのカラーを落とし込んだシューズを履いて出身校（もしくは地元の大学）に忠誠心を示せ」と言ったところか。そのスローガンを具現化するため、1985年には赤白や青白などNCAA強豪校のチームカラーを連想させる7色のDUNKを発売した。中でも他には無いインパクトでスニーカーファンを魅了して、DUNKコレクションの頂点に君臨し続けているのがイエローとネイビーに染まる「MICHIGAN」と呼ばれるカラーウェイド。ここで紹介するのは1985年発売の貴重なオリジナルで、シュータングの裏面では韓国製の表記が確認できる。そのシューレースは紫色に染まっているが、これは交換したのではなく、ネイビーのシューレースが色褪せたもの。90年代の古着ブーム時より多くのファンが憧れ続けるディテールだ。



MICHIGAN
NIKE DUNK HIGH
Release year: 1985
資料提供: bluegro



80年代バッシュとしては特別な個性を主張する
コントラストはアイオワ大学のチームカラー

ブラックとイエローのカラーブロックで構成されたアッパーは、アイオワ大学ホークアイズのチームカラーをサンプリングしたもの。踵の部分が突き出るように微妙な丸みを帯びたサイドビューは、オリジナルモデルを象徴するディテールのひとつ。2021年発売の復刻モデル「DUNK HI 1985 SP」にも、その特徴が継承されている。



IOWA
NIKE DUNK HIGH
Release year: 1985
資料提供: cmi_sun

80年代バッシュとしては特別な個性を主張する
コントラストはアイオワ大学のチームカラー

ケンタッキー大学「ワイルドキャッツ」の選手も着用した、シュータンに山猫のデザインを取り入れたオリジナルDUNK。国内のストリート誌が誤表記した事から「タイガータング」の呼び名が定着しているが「キャットダンク」と呼ぶのが正解。1985年当時は通常のシュータングが縫い付けられた青白DUNKも発売されていた。



KENTUCKY WILD CATS
NIKE DUNK HIGH
Release year: 1985
資料提供: Kicks